

令和 3 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓	誠実・明朗
めざす学校像	
1	生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
2	地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
3	教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
育てたい生徒像	“3つのC”
○ 創造的な人間（Creation）	学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
○ 信頼される人間（Confidence）	高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
○ チャレンジする人間（Challenge）	困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1	教育力の向上
(1)	新教育課程の編成
ア	新学習指導要領に対応した学習状況評価について判断基準等を確定する。
(2)	確かな学力の育成
ア	基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
イ	授業での取組み（最初の 5 ～10 分に小テストを実施等）及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 家庭学習時間が 0 分の割合を令和 5 年度には 7%未満とする。(H30:12%、R1:10%、R2:12%)
ウ	英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
エ	国語表現等の授業において少人数展開授業を実施する。
オ	教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。 図書館の利用人数を令和 5 年度には 4000 人以上とする。(H30:3829 人、R1:3581 人、R2:3733 人)
カ	地球規模の課題 SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。
キ	インターネットを利用した学習ツールの活用を進める。
(3)	授業力の向上
ア	授業充実 PT を核に「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして授業実践する。校内の ICT 環境を整備したことにより、ICT を活用した授業研究を推進し、興味関心を高め知識の習得を効率化する。また、生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、表現、表現）の向上を図る。
イ	ICT を活用した授業研究を推進する。 ※ICT を活用した授業実践を、令和 5 年度まで引き続き全 9 教科で行う。(H30:9 教科、R1:9 教科、R2:9 教科) ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。(H30:82%、R1:79%、R2:82.7%)
ウ	生徒主体の授業研究を推進する。 ※生徒主体の授業実践を、令和 5 年度まで引き続き全 9 教科で行う。(H30:9 教科、R1:9 教科、R1:9 教科) ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合について 80%以上の水準を保つ。(H30:78%、R1:78%、R2:81.7%)
エ	「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。 ※研究授業・公開授業の実施回数を、令和 5 年度まで引き続き年間 10 回以上とする。(H30:10 回、R1:10 回、R2:12 回)
オ	授業力向上の取組み及び BT 学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、英検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させるとともに、英検、GTEC 等の民間の資格・検定試験の受験を推進する。 ※英検準 2 級程度以上の英語資格を持つ者を令和 5 年度には 100 名にする。(H30:47 名、R1:94 名、R2:0 名)
カ	授業力向上の取組み及び 3 年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。 ※令和 5 年度には、国公立大合格者数を 20 名にする。(H30:6 名、R1:9 名、R2:10 名) また、関関同立大合格者数を 160 名にする。(H30:123 名、R1:108 名、R2:182 名)
(4)	3 年間を見通したキャリア教育
ア	選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
イ	補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。 ※学力生活実態調査を 1、2 学年年 2 回、3 学年年 1 回実施し、令和 5 年度まで引き続きその分析会を合計年 5 回行う。 合計 (H30:6 回、R1:5 回、R2:2 回) ※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、令和 4 年度まで引き続き年 1 回以上実施する。合計 (H30:3 回、R1:3 回、R2:3 回)
ウ	卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。 ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
エ	1 年の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。
(5)	グローバル人材の育成
ア	姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。
2	豊かでたくましい人間性のはぐくみ
(1)	部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。 ア 部活動加入率を、令和 5 年度には 90%以上にする。(H30:86%、R1:88%、R2:83.8%)
(2)	生徒会活動の活性化
ア	体育祭・文化祭の活性化を図る。
(3)	生徒指導の強化
ア	遅刻指導を継続強化する。
イ	服装・頭髪指導を継続強化する。
ウ	交通安全指導を継続する。
(4)	校内美化の推進
ア	生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。
(5)	人権尊重の教育の推進
ア	生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。
(6)	安全で安心な学びの場づくり

府立山田高等学校

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。	
イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。	
ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。	
(7) 始業式・終業式を、自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場とする。	
ア 部活動の成果等を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。	
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	
(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。	
ア 学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。	
※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。	
イ 各分掌と各学年のバランスを図る。	
ウ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。	
超過勤務月間 80 時間以上の教員年間延べ人数を令和 5 年度には 20 人以下とする。(H30:52 人、R 1 :29 人、R 2 :25 人)	
(2) 保護者・地域との連携	
ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。	
イ 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。	
(3) 教育活動の情報発信	
ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。	
イ ホームページ、メールマガジンによりタイムリーな情報発信に努める。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
(生徒アンケートより) 学級・学校生活について(90.9%、88.5%)、授業におけるICT活用について(86.3%)、学校行事について(88.7%)、生活・学習規律の指導について(89.2%)、困っているときの対応について(90.4%)、進路行事や進路に関する情報提供(92.4%)、個人情報・プライバシーの保護(94.5%)、施設・設備など教育環境について(89.1%)などは肯定的回答がいずれも80%を超えていることから、大部分の生徒にとって安全で安心な高校生活が実現できており、学校生活への満足度が高いことが読み取れる。今年度も、昨年度に続いて新型コロナウイルス禍の中で、学校行事の延期や大幅な制限が加えられたにも拘わらず、肯定的回答の割合が昨年度とほぼ同様である(肯定的回答75%以上が30項目、昨年度は29項目)のは、学校が感染症対策を講じながら、取り組みを工夫した成果があったと評価している。保健部を中心に取り組んだ学校の新型コロナウイルス感染症防止に対する指導にも生徒たちは安心感を持ってきている(87.2%)。また、授業・学習指導の肯定的回答については、昨年度は目標の80%には満たなかったが、今年度は目標を達成している(82.9%)。臨時休業期間中や、健康観察中の生徒に対するオンラインによる授業・学習指導の工夫、および1人1台端末の導入とともに、先進的にGoogle Workspaceの活用に取り組んでいることも高く評価されている(86.9%)と考えている。 課題となったのは、昨年度までは肯定的回答率が高かった「学校生活についての先生の指導」について(66.4%)は、学校行事における頭髮等の装飾について、これまで曖昧にしていたところをルールの明確化を図ったことに伴う不満が表出したものと思われる。現在、生徒会執行部を中心に生徒と教員の意見交換会を重ねており、来年度に向けて合意形成を目指していきたい。 (保護者アンケートより) 学校生活について(85.4%)、学校行事について(84.7%)、生活・学習規律について(86.4%)、進路指導について(84.1%)、相談やトラブルへの対応について(83.5%)、人権尊重について(87.0%)、災害等緊急時の対応について(93.3%)など肯定的回答がいずれも80%を超えていることから、保護者にとっても、生徒の高い満足度と、生徒が安全で安心な高校生活をおくっていることを実感してもらっていると思われる。しかし、分野別に見ると「授業・学習指導」分野、および「連携」分野の中でも「学校と保護者の意思疎通」については肯定的回答の割合が高くないことを課題と捉えている。「授業・学習指導」分野については、学習の内容や生徒の達成度を懇談や説明会などの機会にわかりやすい形で保護者に提示するようにしていきたい。コロナ禍の中で保護者に来校いただくことが困難な状況の中でも、保護者対象授業公開を実施したり、MeetやYoutubeを利用したオンライン懇談や説明会にも取り組んでいるので、保護者にも積極的に利用していただきたい。 ホームページについての質問はこれまでの「見ているか」という質問から内容の充実について問う質問に変更したところ、生徒・保護者ともに肯定的評価が高かった(生徒84.5%、保護者81.1%)。 (教職員アンケートより) 教職員アンケートについては、「よくあてはまる」という肯定的回答が25%以上の項目が大幅に増えている(7項目→32項目)が、肯定的割合が高い項目(生徒・保護者の満足度、ICT活用、教育相談体制、学校行事の工夫、教育環境、情報管理・広報)に対して、肯定的回答割合が高くない項目は昨年度と同様に「学校運営」・「組織力」の分野となっている。生徒・保護者にとって満足度の高い教育活動を推進するために教員が連携しあいながら、各教員が高い意欲をもって業務に取り組めるような環境づくりに努めていきたい。放課後の限られた時間で開催される職員会議が、意思疎通と意見交換の場として、有効に機能するように、今年度から教員も1人1台のクロームブックを活用して会議資料のペーパーレス化と事前共有に取り組んでいる。	第1回(7/1) ・ホームページの充実を図ってほしい。 ・観点別学習評価について、推進組織を作って共通認識を持つことが大事。 ・ボランティア活動に積極的に取り組んでいる学校もある。山田高校でもできないか。 第2回(11/26) ・オンライン授業も大切だが、対面授業でのコミュニケーションも生徒にとって大切である。 ・図書室の活用を嬉しく思う。デジタルの時代にも紙文化を大切にしていきたい。 第3回(2/18) ・捨ててしまうような本がある場合、学校に寄贈することができるということをPRしてはどうか。 ・生徒アンケートについて、「他の先生が授業見学にくるか」の項目と、「先生に相談しやすいか」の項目が低い。学校経営計画ではスクラップ&ビルドの話が出てきたが、この部分については大事にしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
1 教育力の向上	(1) 新教育課程の編成	ア・新学習指導要領の観点別学習状況評価の基準を作成する。	ア・新学習指導要領の観点別学習状況評価の基準を含んだシラバスを作成する。	ア・観点別学習状況評価基準を定め、内規を改正するとともに、シラバスも作成済み。○
	(2) 確かな学力の育成	イ・授業での取組み及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。	イ・山田BTアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を、対前年度比減する。[10%]	イ・学習をほとんどしない生徒は8%に減少。○
		オ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。	オ・利用を促進し年間の利用者数 3800人以上をめざす。[3773人]	オ・2197人。△ 自習室を別室に設置したことで使用減。 新型コロナウイルス感染症対策のため、使用を控え、授業での常時活用は1講座。
		カ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。	カ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における講演会を実施し、毎回レポート発表を行う。	カ・企業・行政等の講演会を実施するとともに、生徒の発表など実施できた。○
		キ・インターネットを利用した学習ツールの利用を図る。	キ・インターネットを利用した学習ツールの使用を進める。	キ・1人1台端末、オンライン授業等の実施を通して学習ツールの使用を進めた。◎

府立山田高等学校

1 教育力の向上	(3) 授業力の向上	ア・ICTを活用した授業研究・授業実践を推進する。 ウ・生徒主体の授業研究・授業実践を推進する。 エ・「ICTを活用した授業・生徒 主体の授業」をテーマに研究授業・公開授業を推進する。 オ・授業力向上の取組み及びBT学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、英検における準2級程度以上の外部資格試験の合格者を増加させる。 カ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。 イ・補習・講習（授業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。 ウ・卒業生、同窓会等と連携したキャリア教育を実施する。 エ・1年の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。 ア・姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。	ア・ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。 - 授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合 80%以上を維持する。[82.7%] - 学校教育自己診断の（教職員）「ICT 機器を授業に活用している」の肯定回答率（以下、同様）90%を維持する。[92.6%] - 学校教育自己診断の（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」90%を維持する。[96.3%] ウ・生徒が主体となる授業実践を各教科で年間1回以上行う。 - 学校教育自己診断（教員）「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」80%を確保する。[68.5%] - 授業内容を検討し、学校教育自己診断の（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。[59.6%] - 授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合80%以上を維持する。 [81.7%] エ・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。 1人1台端末の導入及び活用について研究を進め、教材を開発する。 オ・英語検定準2級程度以上の英語資格を持つ者を90名以上にする。 カ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。[160名]希望進路の実現率[94.1%]を向上させる。 イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。 - 学力生活実態調査を1、2学年年2回、学年年1回実施し、その分析会を行う。 - 全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。 ウ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年1回以上持つ。 ア・姉妹校のBentleigh secondary college と英語を用いた交流を実施する。	ア・オンライン授業の実施もあり、各教員が複数回の授業実践を行えた。◎ - 昨年より向上し、84.4%。○ 1人1台端末の導入に合わせ、授業においてプロジェクター、ネットワーク活用など、ICT機器の活用が進んだ。98.1%。◎ 94.5%。○ ウ・コロナ禍で難しい状況の中、感染拡大防止に配慮し実施できた。○ - コロナ禍で制限されている中でも、安全に配慮した取り組みができた。76.0%。○ - コロナ禍のため、グループ学習等が制限され、やりきることができなかった。60.4%。△ - 上記の結果はあるが、生徒の評価は高く、83.1%。○ エ・10回。○ - 先行実施8校として、活用研究を進め、ネットワークを使う教材の開発・普及及び自動で小テストを作るシステムなどの情報発信を行った。◎ オ・130名。○ カ・国公立大学・関西4大学合格者数186名。◎希望進路実現率99.4% イ・補習、講習の充実を図り、実施した。オンラインでの講習等も取り入れた。○ - 実態調査を行い、分析結果の共有を行った。○ - 全国模擬試験を校内にて実施。○ ウ・教育実習生による講話等を行った。○ ア・コロナ禍の中、メールを使った交流を実施することができた。○
	(4) 3年間を見通したキャリア教育			
2 豊かでたくましい人間性の向上	(5) グローバル人材の育成			
	(1) 部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成	ア・部活動への積極的な参加を促す。 イ・修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす	ア・部活動加入率90%をめざす。[83.8%] イ・修学旅行後のアンケートでの満足度等。	ア・部活動加入率85.4%（1年86.6%）。△（年度当初感染症により活動が制限されたため、入部のタイミングが遅くなった） イ・修学旅行アンケートで肯定的評価97.3%○
2 豊かでたくましい人間性の向上	(2) 生徒会活動の活性化	ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率90%以上[94.3%]の水準を保つ。	ア・88.7%。○（体育祭競技の部は中止、文化祭3年不参加、制限多）
	(3) 生徒指導の強化	ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。 イ・服装・頭髮指導を継続強化する。特に長期休業あけの指導を強化する。 ウ・交通安全指導を継続する。保護者、地域等と連携しながら、全教職員による登校指導を実施する。	ア・遅刻総数前年度比5.0%減。[1596 人] イ・服装・頭髮違反者なし ウ・交通マナー（規範意識）を高め、事故を未然防止する。PTA、地域等と連携する。 生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率90%以上の水準を保つ。[95.4%]	ア・1169人。約27%減。◎ イ・ほぼできている。体育祭時の指導を機に、校則等を考える機運が生じた。◎ ウ・重大事故なし。○PTA・地域等との連携。－ 66.4%。△生徒に対し物事に疑問を持つよう働きかける指導を行った結果、校則等を考える機運が生じた ア・校内美化が保たれた。○ - 同上。○ 3回実施済み。○
2 豊かでたくましい人間性の向上	(4) 校内美化の推進	ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。	ア・毎日の清掃活動を徹底させる。 - 特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。 - 終業式後等に一斉に大清掃（年3回）を行う。	ア・校内美化が保たれた。○ - 同上。○ 3回実施済み。○
	(5) 人権尊重の教育の推進	ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員として	ア・人権研修会を年1回以上実施する。	ア・校長による人権講話を実施。○

府立山田高等学校

	(6) 安全で安心な学びの場づくり	の自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。 ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。	ウ・生徒が正しい感染症対策を行い、感染症による人権侵害がない状態を作る。	ウ・感染症対策を実施。人権侵害はなかった。○
3 学 校 の 組 織 力 向 上 と 開 か れ た 学 校 づ く り	(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する	ア・学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。 ウ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。	ア・校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。 ウ・全校一斉定時退庁日等の徹底。 ・各部ノークラブデーの徹底。 ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員に対する声掛け、産業医面談の実施。 ・上記取組みにより超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。[延べ25名]	ア・様々な制限の中、遠足等を実施した。○ ウ・一斉退庁については徹底できなかった。△ （部活動が盛んであること、コロナ事案の対応等が多かったことによる） ・ノークラブデーについて徹底できた。○ ・声かけ、産業医面談を実施した。○ ・延べ19人。○
	(2) 保護者・地域との連携	ア・小学生対象の「科学入門講座」、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。 イ・地域との連携を深める。	ア・周知方法を検討し、小学生講座 50名以上、中学生講座200名以上の参加をめざす。[小学生講座 0 名、中学生講座 0 名] イ・地域協議会等へ 10 回以上参加する。[5 回]	ア・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施できず。－ イ・会議の中止が多く、5回。－
	(3) 教育活動の情報発信	ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。 イ・ホームページ、メールマガジンによりタイムリーな情報発信に努める。	ア・学校説明会を実施する。 イ・ホームページのタイムリーな更新を実施する。	ア・学校説明会については、感染症対策を強めて実施した。○ イ・ホームページの更新が速やかにできた。◎ （コロナ関連に関わる情報の速やかな発信、学校行事等の様子の配信等が行えた。）